

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

学んだことをきっかけに 新たな分野へ挑戦中です

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **松野 恵子**

◆通信教育部への入学

「お母さんがレポートを書いているのが一番嫌い。」在学中、小学2年生の息子がレポート作成している私に言った言葉でした。それ以来、勉強することに少し引け目を感じながらの学生生活でした。

元々は、赤ちゃんからお年寄りまでを対象にした外来診療と在宅医療（訪問診療・訪問看護）を主に行っているクリニックでケアマネージャーの資格をもつ看護師として勤務していました。以前から人を支援するためには医療と介護の他に福祉の力が不可欠だと考えており、福祉の知識を深めたいと通信教育部に入学しました。

入学当初は、病院に勤めていたのですが、学業や実習の時間を確保しやすい環境を求めてクリニックへ移りました。子育て、仕事、家事をこなしながらのレポート学習、スクーリング受講等は大変で、実習先を選択するところまでたどり着くのは、本当にやっとの思いでした。

◆実習、そして転職へ

実習では、子どもを取り巻く環境を学びたいと考えました。以前、病院勤務をしていた時、夜間の救急外来に喘息発作を起こした少年がタクシーで来院し、喘息の処置や会計までを一人で済ませて帰る姿を見たのがきっかけです。その少年の置かれている環境が気になり、地域の子どもを取り巻く現状を理解し、成長や発達段階に合わせた対応の在り方を学び実践できるようになりたい、社会資源、学校や地域との連携の在り方を学びたい

と思ったことが理由でした。

第一に選んだ実習先は、自分が希望する内容が実習できそうではないと知り悩みましたが、担当の佐藤先生やスクーリングでお世話になった川口先生のアドバイスで気持ちを切り替えることができ、児童養護施設での実習を実現させることができました。

結果、その実習で経験したことや大学で学んだことが大きく影響し、福祉や教育の分野への転職を決断する力となりました。現在は、教育委員会に所属して小学校で特別支援教育の支援員業務と、NPO法人の相談支援事業所で障害のある方々や発達障害の子どもの相談を主に対応する相談支援専門員として勤務しております。

入学当初、転職するまでに至るなんて、自分では到底思ってもいないことでした。

◆これから実習を行う方へ

実習の際に重要なのは、実習のねらいと具体的達成課題を明確にして臨むことだと思います。実習は、福祉施設や事業所で、実習指導の資格を持った社会福祉士のもとで行われますが、場合によっては社会福祉士としての実習生というより、人手不足を補う人として対応され、思うような実習内容が実現できないこともあるのではないかと思います。私の場合は、相談業務に関連した業務に接する機会はほとんどなく、他の学校から来ている保育実習生と、同じような実習内容でした。しかし、現在の職員配置基準では、入所している様々な事情を抱える子どもたちの養育への細かい対応をするには困難な現状があり、仕方がないことかもしれないと感じました。入所している子どもたちは、親が精神疾患などの理由で養育困難な状況であったり、ネグレクトや身体的虐待などを受けていたり、寂しさや大きな傷を負っている子どもが多く、また、学習障害やアスペルガー症候

群と診断されている子どももいました。担当職員は、養育ニーズが多様化している子どもたちを前に、子どもたち一人一人が、自分は愛されている存在と実感できるように対応しようという目標はあるものの、日々の生活（食事、入浴、排泄、洗濯、学校との連絡等）の対応に追われてなかなか一人一人と向き合う時間が取れないでいました。そんな実習先の環境の中で、一つでも多くのことを学びたいと考えた時、実習のねらいと具体的達成課題が明確になっていることはとても重要なことです。

◆学んだ事のすべてが、今の私を支えています

我が子達に、嘘をついてスクーリングに出かけていた頃が懐かしいです。鹿児島県奄美大島から仙台までの移動には一日がかりで、周囲からも「そんな遠くを選ばなくてもいいのに」という声はありましたが、今振り返っても、私は東北福祉大学で学ぶことができ本当に良かったと感じています。医療現場からの転職を表明した時、周囲の人は珍しがりましたが、有り難いことに家族は反対しませんでした。

教育と福祉の現場に飛び込んでから一年が経とうとしています。現在は教育現場や福祉施設等の、それぞれの全体像が把握できるように、観察と情報収集に力を入れて、学んできた知識と一つ一つすり合わせながら、対応しているところです。

小学校で特別な支援が必要な子どもたちや保護者や教員と関わる時、様々な家庭環境と向き合う時、相談事務所で相談者の話を聞いたり担当者会議を開催したりする時、私は、レポート学習や相談援助技術やスクーリングで学んだ内容に立ち返るようにしています。ニーズが多様化し、ぴったり合うマニュアルのようなものがないからこそ、自分の考え方や物事の捉え方に偏りがいないか、自分の欠点や長所、自分が適するケースや適さないケースを知る自己覚知の視点、また、自分がどんな役割を担っていて自

分の存在がどんな影響を及ぼしているかの考察，自分自身の感情の統制力を持って自他の気持ちを混同する同一化が起きないように技術と観察を駆使すること等，これまで大学で学んだ知識や技術やつながりが，自分の福祉感の抛り所になるのだと思っています。

最近，生涯発達心理学，児童・家庭福祉論，障害者福祉論，障害児の心理のレポートや教科書，福祉小六法（近々，最新版福祉六法を購入予定です。）に頻繁に目を通しています。また，人と環境の影響を念頭に置けるよう，社会心理学も同様に目を通しています。その他どの科目も，今の業務に携わる私を支えています。

在学中の皆さん，学んでいることはいろんな意味で自分を支える知識や技となります。頑張ってください。お世話になった先生方，関係者の皆さま，スクーリングで出会った皆さまには感謝しております。ありがとうございました。奄美から，卒業生の一人として，皆さまそして東北福祉大学の発展を祈っております。

卒業生アンケートより(1)

3月卒業生のアンケートから、「学んだことをどういかしていくか」「学習をされていて辛かったこととその克服法」についてお伺いしました。

【学んだことをどういかしていくか】

- ・福祉の仕事は初めて就くことになるが、高齢者が安心して生活する上でのお手伝いをしたい。身体だけでなく、心にも寄り添った関わりができる支援者になりたい。
- ・ソーシャルワーカーとして活動することを目標にこの2年間学習を続けてきました。今後はそれを実践に活かし、現場で活動したいと思います。
- ・資格が必要とされている職業について、困難を抱えている人々の助けになりたい。
- ・5年一貫教育の看護科（高校）に勤務しているので、学生の指導に活かしていきたい。
- ・障害者支援をしていきたい。その上で得た知識等をいかしていきたい。

【学習をされていて辛かったこととその克服法】

- ・介護（家族）が重なり、予定通りにレポートが進まなかった。時間を長くあてるのではなく、短い時間集中して学習するようにした。「できる時間はここしかない」という緊張感が課題に取り組む上で力になった。
- ・レポート課題がたまってしまい、手をつけようとするもなかなか気分が乗らないことがありました。また、レポートと国家試験対策を並行することは辛いことでした。スクーリング後は息抜きに休みたくなりますが、そこをがまんしてレポートに取り組むことが大切だと思います。
- ・なかなかレポートが合格出来ない。あきらめず何度も出しつづけた。また学友に相談した。
- ・教科書を理解するのに時間を要した。インターネットや文献を購入して対処した。

※ p. 22, 77にも、卒業生アンケートを掲載しております。